

第8回 建築教育シンポジウム

「建築教育研究論文報告集」

当日の資料と論文の掲載されている。



2008年1月26日（土）10:00～17:05、第8回 建築教育シンポジウムが、建築会館で開催され、40名を越す参加者があった。司会は阿部浩和（大阪大学）。主旨説明の後、第一部は招待講演として「大学で学ぶ建築設計、巨匠に学ぶ建築教育」と題して、香山壽夫、光井純のお二人をお迎えして、ご講演いただき、その後、会場との意見交換が行われた。また、第二部は建築教育研究論文報告集に掲載の論文の発表が行われた。

第一部：招待講演 大学で学ぶ建築設計、巨匠に学ぶ建築教育

第二部：教育論文発表



第一部：大学で学ぶ建築設計、巨匠に学ぶ建築教育

司 会：阿部浩和（大阪大学）

香山壽夫（香山壽夫建築研究所）

『建築教師としてのルイス・カーン』

光井 純（光井純&アソシエーツ建築設計事務所(株)）

『シーザー・ペリの建築教育について

（イエール大学そしてニューヘブンの事務所での実践）』

主題解説：稲葉武司（建築教育委員会委員長）

第一部は、巨匠建築家による設計教育に注目し、海外の巨匠建築家ルイス・カーンおよびシーザー・ペリにそれぞれ学ばれた経験をもつ2人の講師を迎え、巨匠建築家の大学あるいは事務所における教育訓練についてお話いただく。さらに先生方は、実際に大学および実務において後進の教育に日々関わってこられた中で、その手法と、巨匠建築家に学んだ経験がどのような形で影響したかを



をお話いただく。巨匠建築家が、大学での教育と実務での教育訓練とをどのように区別し、また結びつけていたのか、またそれが現在の日本における建築設計教育ではどのように捉えられるのかについて、議論する機会としたい。

第一部

（1）『建築教師としてのルイス・カーン』

香山壽夫（香山壽夫建築研究所）

教師としてのルイス・カーンについて、授業が対話として行われていた様子など、ペンシルバニア大学での、ルイス・カーンと当時の学生たちのやり取りが目に浮かぶような、お話であった。

ルイス・カーンのスタイルは、学生たちに教えようとしているというよりは、自分で答を探し求めているのであり、答というよりは、むしろ



ろ、何が自分の求めているものなのか、学生を道連れにしなが、その問いを探して
いたかのように述べられていた。また、ルイス・カーンらのデザインに学び
美しく踏襲しようとする案より、個々の学生の思考に基づいたオリジナルな案を支持
し、その可能性をさらに伸ばそうとするような教育であったこと。そしてその根底に
は、ルイス・カーンが従事した大学院教育が、学部教育で設計者として自立できるだ
けのスキルを十分に叩き込ませて卒業した後で、さらに意欲を持って戻ってくる学生に
対して施されていたという事実があったことが紹介された。

(2) 『シーザー・ペリの建築教育について (イエール大学そしてニューヘ
ブンの事務所での実践)』

光井 純 (光井純&アソシエーツ建築設計事務所(株))

ペリの師であったサーリネン自身も、場所と
目的に応じて最適な建築の形は様々に変わ
ると考えていた。実際彼の作品は多様でチャ
レンジに満ちている。ペリも同様にデザイン
オンレスポンスの考え方を継承し実践し、多
くの作品を生み出している。スタジオ教育の場
でも、言語の壁を越えたレスポンスの応酬の
ために、学生たちが設計とプレゼンテーショ
ンに厳しい修行を積んでいた様子が紹介された。

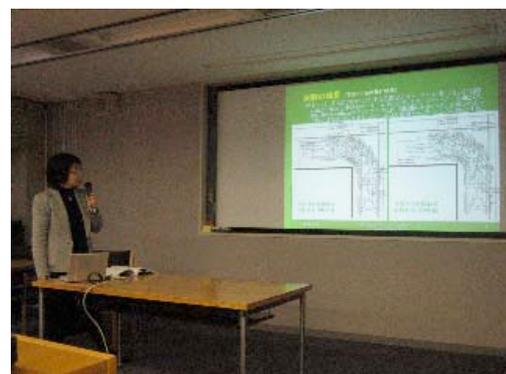


建築デザインにおいて、形やスタイルに関する部分は其々の建築家の個性によって
多様に変化して行くが、設計の姿勢や倫理観はサーリネンからペリへと継承されてい
ると見ることができる。設計におけるぶれない価値観を受け継いでゆく、ということが
教育の目的なのかもしれない。

第二部

「実習・演習授業の開発と評価」「高
齢者・障害者とスケールに関する教育」

「建築における遠隔教育・実務教育」の
3つのセッションが行われ、合計14題
の発表があり、多岐にわたる教育現場で
の現状と取り組みが紹介され、活発な議
論がなされた。



実習・演習授業の開発と評価 13:00～14:30

司 会：横山ゆりか（東京大学）

- (1) 『工学系学生の環境問題に対する姿勢に関する考察- 受講生のコメントにみる環境問題の捉え方の分析事例- 』 伊藤俊介（東京電機大学）
- (2) 『建築設計演習における構造計画技法の教育に関する考察- 教科書「鋼構造の造形と設計」執筆の経験から- 』 富岡義人（三重大学）
- (3) 『都市景観をテーマとした人工環境教育プログラムの実践と評価（1）- 模型製作から水辺空間への問題意識を育む学習- 』 諫見泰彦（九州産業大学）
- (4) 『分野横断型教育プログラムにおけるコミュニケーション技能演習の効用に関する考察』 小松喜一郎（立命館大学）
- (5) 『景観調査と画像処理を用いた景観誘導ルール提案のための演習』 鈴木広隆（大阪市立大学）
- (6) 『図的表現を伴う演習科目における建築系学生の作図技量の現状』 阿部浩和（大阪大学）

高齢者・障害者とスケールに関する教育 14:40～15:40

司 会：長澤夏子（早稲田大学）

- (7) 『建築を学ぶ大学生の高齢者・障害者等の福祉に関する意識調査- 関西大学と近畿大学の比較- 』 亀谷義浩（関西大学） 岸上純子（坂倉建築研究所） 知花弘吉（近畿大学）
- (8) 『建築学科学生の障害者体験学習による教育的効果』 知花弘吉（近畿大学） 亀谷義浩（関西大学） 延原理恵（京都教育大学）
- (9) 『尺度基準を設定することによるスケール感習得の分析』 秋田美穂（椋山女学園大学） 戸部栄一（椋山女学園大学）
- (10) 『廊下曲がり角における車椅子の走行軌跡の簡易検証- 演習授業での基準寸法検討の試み- 』 横山ゆりか（東京大学） 古賀紀江（前橋工科大学）

建築における遠隔教育・実務教育 15:50～17:05

司 会：山内一晃（名古屋女子大学）

- (11) 『e-Learningシステム「Web Design Studio」による建築設計教育への試み』 衣袋洋一（芝浦工業大学）
- (12) 『建築系大学院における事業採算性検討を含めた建築企画演習の試み』 服部邦比古（榊竹中工務店） 阿部浩和（大阪大学）
- (13) 『クライアント参加のプロジェクト方式 大阪市立デザインにおける設計教育の有効性に関する研究- 企画提案から基本計画への移行プロセス- 』 宮本昌彦（教育研究所）
- (14) 『工業高等学校の建築教育における地域連携教育の効果に関する研究- 西日本地域の建築系工業高等学校を対象としたアンケート結果- 』 白川直人（青森県立むつ工業高等学校） 月舘敏栄（八戸工業大学）